

地 域 再 生 計 画

1 地域再生の名称

「観光産業を活かした雇用機会創出プラン」

2 地域再生計画の作成主体の名称

仙北市

3 地域再生計画の区域

仙北市の全域

4 地域再生計画の目標

仙北市は、秋田県の中央東部に位置し、平成17年9月に、角館町、田沢湖町、西木村の2町1村が合併し誕生した。総面積1,093.64km²を有し、人口は約3万1千人である。

日本一の水深を誇る田沢湖、全国的に有名な温泉・秘湯の数々、いにしへの面影を今に伝える武家屋敷の町並み、「紙風船上げ」や「火振りかまくら」といった多彩な行事など、豊富な観光資源と恵まれた自然環境にあふれたまちであり、東北有数の観光地である。秋田新幹線の角館駅と田沢湖駅があり、首都圏から秋田県への玄関口に位置している。

主な産業は農業であり、米やほうれんそう、肉用牛等を生産している。また、農業を基盤としながら、卸売・小売業、製造業、サービス業の従事者が多く、就業者数を産業別で見ると、第一次産業が14.3%、第二次産業が28.5%、第三次産業が57.1%となっている。

なお、地域の経済状況は、景気悪化等による観光客数の減少や郊外への大型店の出店に伴い、中心市街地の衰退化が進み、小売店舗が相次いで閉鎖するなど深刻な状況となっている。

また、昨年のリーマンショック以降、世界経済の急激な悪化を受け、事業規模の縮小や廃業、離職者の大量発生などにより、平成21年4月のハローワーク角館の有効求人倍率は0.18倍と近年稀に見る厳しい雇用環境にある。

年齢別人口推移（単位：人）

項目	H12	H17	増減率
年少人口	4,173	3,554	△15.1%
生産年齢人口	20,388	18,477	△9.4%
老年人口	9,004	9,837	9.3%
計	33,565	31,868	△5.1%

(国勢調査)

産業別就業人口の推移 (単位：人)

項目	H 1 2	H 1 7	増減率
第一次産業	2,410	2,272	△5.7%
第二次産業	5,778	4,541	△21.4%
第三次産業	9,018	9,097	0.9%
計	17,206	15,910	△7.5%

(国勢調査)

農家数、農業産出額 (単位：戸、億円)

項目	H 1 2	H 1 7	増減率
農家数	2,857	2,173	△23.9%
農業産出額	68.3	67.5	△1.2%

(農林業センサス、生産農業所得統計)

製造業事業所数、従業者数、製品出荷額等 (単位：箇所、人、百万円)

項目	H 1 6	H 1 9	増減率
事業所数	79	72	△8.8%
従業者数	2,038	1,761	△13.6%
製造品出荷額等	19,966	17,765	△11.0%

(工業統計調査)

卸小売業事業所数、従業者数、商品販売額 (単位：箇所、人、百万円)

項目	H 1 6	H 1 9	増減率
事業所数	502	481	△4.2%
従業者数	2,206	2,209	0.1%
商品販売額	32,765	35,522	8.4%

(商業統計調査)

観光客数 (単位：人)

項目	H 1 6	H 2 0	増減率
観光客数	6,308,210	5,251,241	△16.8%

(観光統計調査)

このような地域の特性・課題を踏まえ、仙北市総合計画では、市の将来像を「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」と定め、「交流」をキーワードに定住人口3万人、交流人口1千万人のまちづくりを強力に進めている。マーケティングを基本とした生産販売体制の確立、市場戦略性の高い産地づくり等の農業の振興、製造業を中心とした企業誘致優遇制度の充実と既存企業の活動環境の支援による工業の振興、さらに、空き店舗やインターネット等を活用した、商業の振興・起業支援、独自の新たな観光メニュー開発による観光振興等、市のもつ可能性を最大限に活かした活力あふれるまちづくりを基本目標の一つに掲げている。

当市の地域再生計画は、観光振興、農林業振興、商業物産振興の3つの分野に重点を置き、それら固有の産業振興を図ると同時に、産業間相互による連携・波及効果、特に地域資源を活用した観光産業の振興によって雇用の拡大を図るものである。

第一に、観光においては、外国人観光客が増加傾向にあることに鑑み、新たな市場を開拓するため、受け入れ体制の整備や誘客促進を図ることとする。第二に、農業においては、農産物の付加価値を高める食品製造や、農産物販売体制の強化を推進し、また、林業においては、保育・間伐等による、未利用現地放置材を活用するエネルギーシステムを構築する。第三に、商業物産においては、販売に係るノウハウや広告宣伝、付加価値商品の開発やブランド化に取り組む。

これらの事業を実施することにより、新たな雇用の場の創出、拡大を図り、交流人口を増やすことで、本市が目指す将来像「観光産業を活かした北東北の交流拠点都市」の実現を図っていくものである。

〔目標〕

雇用の拡大に関する指標として、地域雇用創造推進事業において、事業を利用する求職者等の就職件数及び創業者の合計で102人を目標とする。

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

地域産業振興に関しては、農地面積が約4,747haで農業が基盤の地域であり、主力の米の他にほうれんそう、大豆等の作付面積が多く、最近では、ねぎも多くなっている。しかし、食品加工製造業に関しては、一次産品に比べ製造出荷額が少ないため、今後、農産物を活用した新たな商品開発等、食品加工分野へ展開する事業等を実施する。

工業分野では、製造品出荷額が約178億円（平成19年）となっていたが、昨年からの急激な景気の悪化に直面している。現在、各企業が立て直しを図っているところであるが、このような時期にこそ人材を育成し、今後の地域の企業競争力強化に繋がる事業等を実施する。

商業振興に関しては、商品販売額が約355億円（平成19年）となっている。全国的に見られるように郊外の大型店の出店により周辺地域では活性化が見られるが、旧来の商店街は衰退を辿っており、空き店舗が多く見られるようになった。今後は、マーケティング重視の販売促進、空き店舗・インターネットを活用した個人・少人数での創業を促進する事業等を実施する。

観光分野に関しては、田沢湖や角館、乳頭温泉郷など県内有数の観光地を抱えていることから、年間約525万人（平成20年）の観光客が本市を訪れているものの、ここ数年落ち込んでいる。今後、「おもてなし」の心を市全域に浸透させながら、国内向けには「安近短」を売りに、隠れた観光資源を発掘し観光ルートの開拓、外国人向けには、特に台湾や香港、韓国等をターゲットとしたツアー開発、人材育成等の事業を実施する。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業 該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 「地域雇用創造推進事業（パッケージ事業）」

仙北市雇用創造推進協議会において実施する事業

構成員 仙北市、仙北市商工会、社団法人田沢湖観光協会、角館町観光協会、西木観光協会、
協同組合角館町物産協会、田沢湖物産協会、仙北東森林組合、秋田おばこ農業協同田沢湖支店、
秋田おばこ農業協同組合角館支店、秋田おばこ農業協同組合西木支店

(1) 雇用拡大メニュー

ア、観光・産業雇用拡大事業

外国人旅行者が安心して街を観光出来ることを目的に、観光についての必要な知識の習得から、観光ビジネスに繋がる企画作成の支援を実施する。また、マーケット戦略・商品ブランド開発・販売強化に関するノウハウを、企業等の事例を交えて紹介し、今後の課題解決に向けたスキルアップを図りながら、地域の中核的リーダーの育成を目指す。

(2) 人材育成メニュー

ア、外国人誘客支援事業

- ①観光案内の実践と外国人観光客へのホスピタリティやコミュニケーション能力を修得するための語学セミナーを実施する。
- ②就職に役立つ接客・マナーの基本を身につけるとともに、地元旅館女将や、フロント主任から実践での接客技術を学ぶ。

イ、観光・産業支援事業

- ①本市で実施する木質バイオマスのシステムを学習しながら、地域農林業での活用の仕方を研修する。
- ②温泉と健康をテーマに温泉の新しい魅力や、温泉をとりまく自然を活用した、「健康ツーリズム」の振興を図るため、温泉入浴マイスターの育成に向けた研修を実施する。
- ③地場産の豊富な食材を使った創作料理と、米粉及びアケビ油等を使用した新たな特産品の研修を実施する。

ウ、ITスキル支援事業

- ①本市の農林産物全般を販売できる人材の育成を図りながら、既存の生産・流通体制にとらわれない、地元特産品の Web 市場等を活用した販売活路を見出すためのセミナーを実施する。
- ②地元企業や情報関連企業での業務に必要な OA ツール（ワープロソフトや表計算ソフト等）の操作方法を習得し、さらにインターネットについて必要な知識を学ぶとともに、社会人としてのマナー等の研修を実施する。

(3) 就職支援メニュー

地域求職者を対象とした就職面接会を実施することにより、求人・求職のマッチングを通じた就業機会の拡大と充実を行い雇用の拡大を図る。

5-3-2 「支援措置によらない独自の取組」

(1) 観光宣伝事業

本地域が魅力的な観光地であることを知っていただくため、首都圏エージェンツ等への観光キャンペーンやマスメディアへの広告、フィルムコミッションを活用した観光宣伝を実施している。

今後も観光キャラバン・キャンペーン、雑誌などへの広告、インターネットを活用したPR、アンケート調査、フィルムコミッション活動などを実施し、仙北市の魅力を発信する。

(2) 観光施設整備事業

観光客へのサービスの向上を目的に、観光案内所や、駐車場・トイレなどの利用者の利便性を心がけ、適切な維持管理を行っている。訪れた方々が楽しく安全に施設を利用できるよう、自然景観に配慮しながら適切な配置や整備を図る。

(3) 観光交流地域連携事業

自然環境や歴史、伝統文化など優れた観光資源に恵まれている仙北市は、国内だけでなく世界に知られる観光リゾートを目指して、北秋田市・岩手県雫石町などとの連

携を図りながら、北東北の中核的役割を果たすことを目的に事業を実践している。観光客が求めるリアルタイム観光情報を、GPS付携帯電話等により、地図情報と連動して提供するとともに、ホテル・旅館などの各種団体及び観光協会などと連携し、地域の魅力をPRするための物産展や観光キャラバン、地域きらめき写真展等を実施し、広域的なPRに努めさらなる誘客を図る。

(4) 「やるぞ!アグリビジネスプラン」応援事業

農山村の活力を維持・増進するため、農林業と他産業との連携のもとに実施するアグリビジネスに新たに参入を希望する、又はすでに実施しているアグリビジネスの業務拡張を希望する市内の農林業者に対して、投資額の一部を助成する。今後も素材出荷だけでなく、加工品の開発に力を入れ付加価値の高い産地形成を図っていく。

(5) 木質バイオマス熱電供給システム事業

本地域の総面積の約8割を占める森林地域の特性を活かし、杉間伐材等を利用した木質バイオマス熱電併給システムの建設により、新規雇用を確保するとともに、県内外からのバイオマス施設視察研修の受入などにより、地域活性化を図り、新たな地域興しの起爆剤とする。地域経済効果として、山地残材搬入費及びチップ製造、化石燃料からの変換分、さらには、施設見学等による宿泊効果など約5,800千円を見越している。また、施設完成後は施設管理者として4名の新規雇用が生まれるほか、間伐材の搬入及びチップ製材増による雇用を図る。

(6) いいもの問屋〈秋田仙北屋〉普及プロジェクト

観光と商工、農林業といった産業連携を一層強固にし、「のこす」「いやす」「もてなす」の3つのキーワードで新仙北市ブランド品の普及を図り、新たな付加価値の創造を目指すため、平成19年度に「いいもの問屋〈秋田仙北屋〉」ブランド普及委員会を設立、既存特産品の差別化を視野に、地域内商品の商品開発等をさらに推進する。いいもの問屋〈秋田仙北屋〉による「おもてなし隊」活動の定着が、本市のさらなるイメージアップを図り、地域資源の見直しと地域内の観光・農商工業者間の連携を推進し、販路拡大を図る。

6 計画期間

認定を受けた日から平成24年3月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

地域雇用創造推進事業の利用者全員に対してアンケート調査を実施し、4に示す数値目標に照らし就業や創業の状況を把握し、取組に対する評価を行う。

- 8 地域再生計画の実施に関し、当該地方公共団体が認める事項
該当なし